

## 過去の試験問題例／イメージ

第1次試験における筆記試験の種目としては専門試験と外国語試験があります。試験の構成は変わり得る点にご留意ください。

### 専門試験

専門試験は論文問題から構成されます。与えられた問いに応じた論述を行うものです。

(問題の例／イメージ)

- 将来起こり得る大国間の紛争を想定し、「紛争未満」から「紛争」に至る各段階で、いわゆる新領域（宇宙・サイバー・電磁波）および認知領域にかかる能力がどのような目的で活用され、またその結果いかなる効果をもたらすと考えられるかを論じなさい。
- エマージング・テクノロジーと技術的イノベーションの果たす役割について、軍事的有効性にかかる諸要因を踏まえて論じなさい。
- 影響力工作（influence operation）の定義を述べたうえで、2016年以降の世界各国での影響力工作対策にはいかなるものがあるか、対策の有効性や課題、問題点を含めて具体的に論じなさい。
- 日本の安全保障にとって、冷戦期のソ連邦の存在と近年の中国の台頭は、どのように類似し、どのように異なるか、両者を比較して論じなさい。
- 韓国あるいは北朝鮮（両方でも可）の外交政策決定過程に見られる特徴について、比較政治学の観点から論じなさい。
- 東南アジア諸国のうち一つ以上の例を取り上げ、その国（々）が現在直面する政治・安全保障上の課題を説明し、ASEAN内や日本をはじめとする域外国との協力によってどのように対処しているのか、説明しなさい。
- インドの「戦略的自律」とは何か。具体的な事例を交えつつ論じなさい。
- 2017年以降の日米豪印 Quad の枠組みでの協力について、その主要な成果、限界、背景について論ぜよ。
- 国際関係論および紛争研究における3つの分析レベル（国際システム・国家・個人）の扱いが過去50年間でいかに変化してきたかを論じなさい。
- 「組織は合理的に行動する」、「組織は合理的な意思決定を行う」というとき、いかなる意味において「合理的」であるのか、自身の学ぶ分野における組織の合理性に

関する議論を引用しつつ、説明せよ。また、組織の合理性はいかなる要因によって制約を受けるのか説明せよ。

- (前の問いとの関連で) 国家安全保障に関する政府機関の政策または意思決定の実例を一つ取り上げ、前の問いに対する答案において説明した合理性に照らし、当該政策・意思決定が合理的であったといえるか否かを論ぜよ。その際、前の設問において自身が言及した合理性制約要因は政策・意思決定プロセスにおいてどのように作用していたのか/いなかったのかを説明せよ。
- 国際政治や国際安全保障の研究手法としての定量分析、定性分析、数理分析について、それぞれの長所・短所を比較検討した上で、戦略・政策にかかる研究分野で最も望ましいと考えられる研究手法の在り方を論じなさい。

## 外国語試験

外国語試験の構成は募集区分によって異なることがあります。ここでは英語試験の例をご紹介します。英語試験では、英文の問題文(題材文)を読み、与えられた問いに応じ、英語で題材文の議論を整理したり自身の考えを論じたりする記述式の問題です。

(問題の例/イメージ)

Joseph Lepgold, "Is Anyone Listening? International Relations Theory and the Problem of Policy Relevance," *Political Science Quarterly*, vol. 113, no. 1 (1998) (抜粋) を読み、著者の主張に基づくと、自身の研究がどのように政策に貢献できるかを英語で論じるもの。

Gary King, Robert O. Keohane, and Sidney Verba, *Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research*, Princeton University Press, 1994 (抜粋) を読み、社会科学と「複雑性」の関係について、関心のある研究分野に結びつけつつ、英語で自身の考えを議論するもの。

Michael J. Mazarr, "Understanding Deterrence," RAND Corporation, April 19, 2018 (抜粋) を読み、抑止の各タイプにおいて中核となる考え方が文献内でどのように論じられているか、そして自身が考える、抑止の成功に必要な基本条件は何かを英語で説明するもの。

Eliot A. Cohen, "Supreme Command in the 21<sup>st</sup> Century," *Joint Forces Quarterly*, Issue 31, Summer 2002 (抜粋) を読み、著者によれば戦時の文民指導者は軍の指揮官との関係をどのように扱うべきであるのか、英語で説明するもの。

Ole R. Holsti, "Public Opinion and Foreign Policy: Challenges to the Almond-Lippmann Consensus," *International Studies Quarterly*, Vol. 36, No. 4 (Dec., 1992) (抜粋) を読み、著者が論じている3

つの命題を述べ、そのうち1つについて現代での妥当性を自身がどのように考えるか、具体的な事例を交えて英語で議論するもの。